

令和7年度
近畿大学大学院 総合文化研究科 入学試験
【一般】

日 本 文 学 専 攻

外 国 語 科 目 試 験 問 題

日本語【言語・文学コース】

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をお読みください。

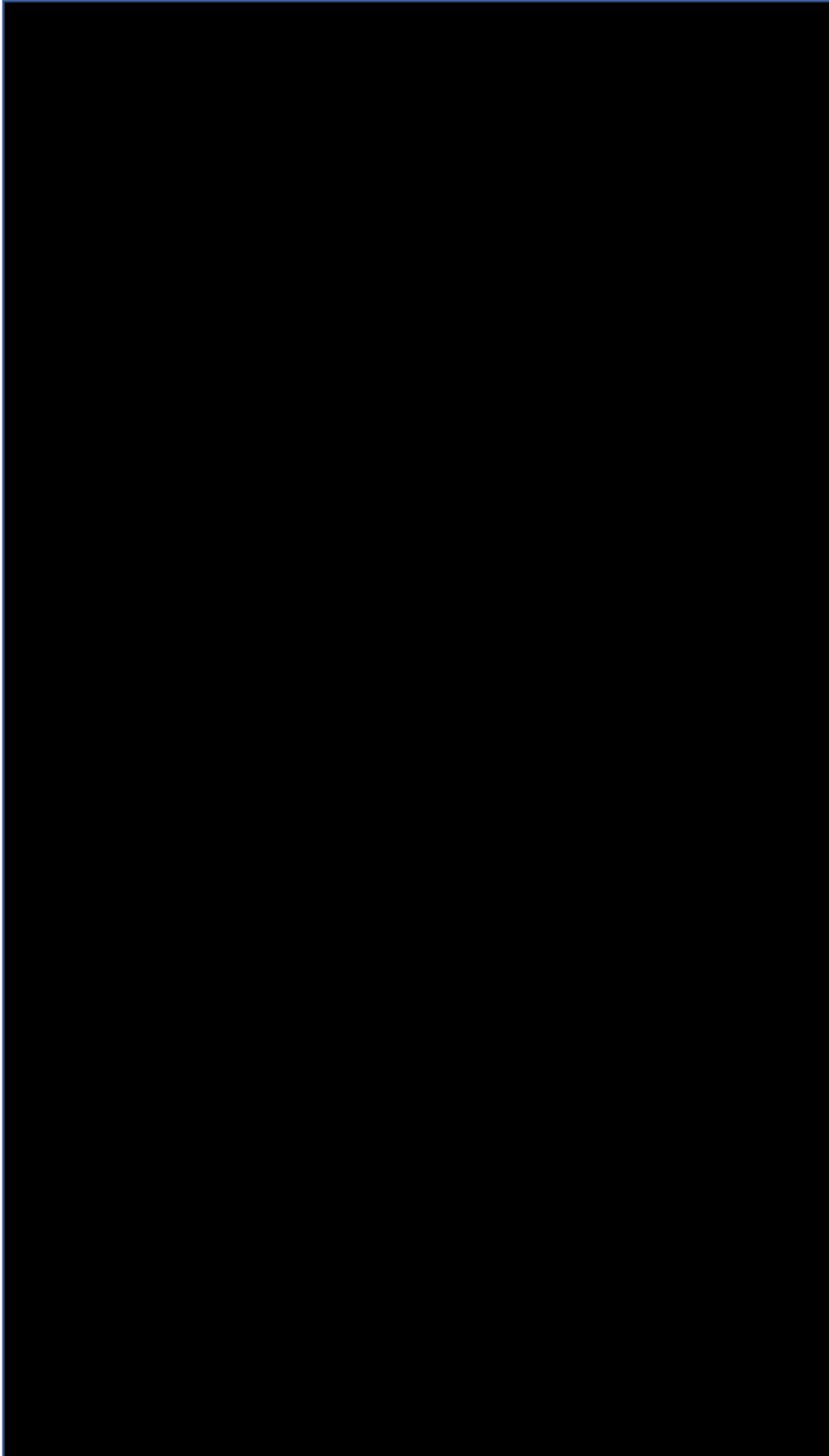
- 1) 解答はじめの合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2) 机の上には、受験票、HBの黒鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式は除く)、時計(時計機能だけのもの)、眼鏡以外のものは置かないでください。
- 3) 辞書については、持ち込を許可されている専攻・コースのみ使用可能です。(電子辞書は除く)
- 4) 試験開始後、下記記入欄にコース名・受験番号・氏名を記入してください。
- 5) 試験開始後に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気が付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 6) 試験終了後、この冊子をそのままご提出ください

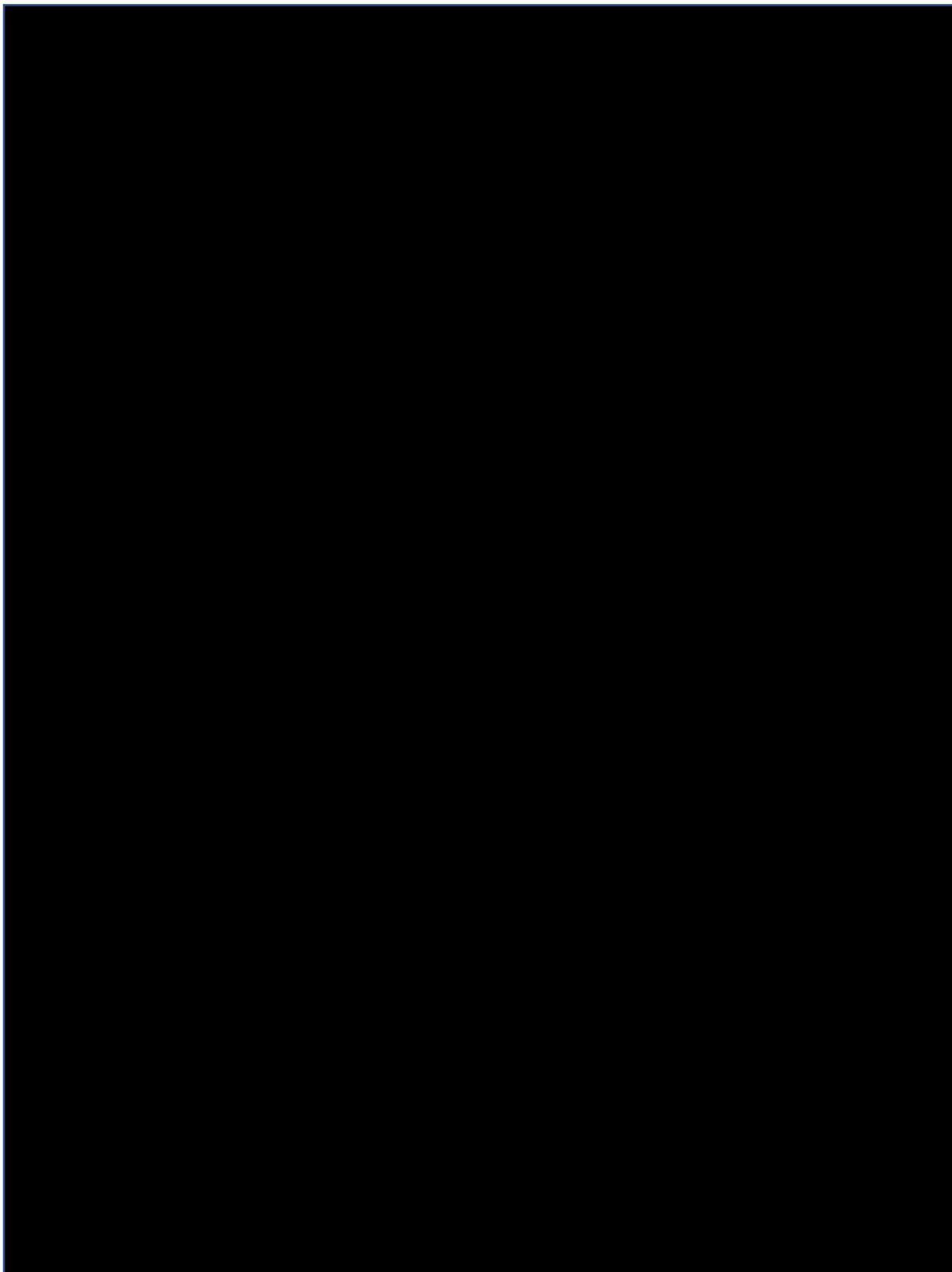
令和7年2月15日実施

令和七年度 近畿大学大学院 総合文化研究科 入学試験

日本文学専攻 外国語科目試験問題【日本語】

次の文章を読み、後の【問題1】～【問題3】に日本語で答えなさい。





(中村桃子『女ことば』はつくられる』による。ただし、見出しを省略した)

【問題1】傍線部①について、「口語文典と国語読本」が果たした役割を本文の内容に沿って説明しなさい。(80字程度)

【問題2】傍線部②はどのようなことか。本文の内容に沿って説明しなさい。(80字程度)

【問題3】「国語」とはどのような性質を持つものか。本文の内容に沿って説明しなさい。(150字程度)

出題意図

【問題1】本文の論旨の理解と、要点をまとめる日本語能力を問う。具体的には、『口語文典と国語読本』が果たした役割について、本文で例示とともに述べられている内容を理解した上で、要点を押さえた短い日本語の文章にまとめられるかを問う。

【問題2】本文の論旨の理解と、要点をまとめる日本語能力を問う。具体的には、「学問的実践」と「イデオロギー」の内容を本文の記述に沿って理解した上で、両者が「互いを補強しつづける」とはどのようなことを短い日本語の文章にまとめられるかを問う。

【問題3】本文の論旨の理解と、要点をまとめる日本語能力を問う。具体的には、本文の全体を通じて論じられる「国語」とジェンダーの関係について論旨を理解し、その上で「国語」の性質をジェンダーの観点から短い日本語の文章

にまとめられるかを問う。

【解答例】 著作権の関係から解答例いては非開示とする。